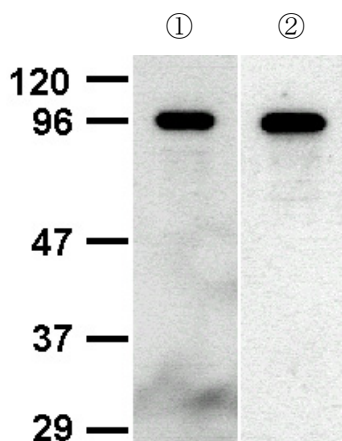


抗 マウス G5PR ポリクローナル抗体

G5PR は、DNA 複製に関与する新規分子 Germinal center Associated DNA Primase (GANP) に会合する蛋白分子としてクローニングされました。G5PR はプロテインホスファターゼ 2A (PP2A) の B'サブユニットと相同性があり、PP2A 及びプロテインホスファターゼ 5 (PP5) と結合します。また、G5PR/プロテインホスファターゼ複合体が細胞複製ライセンス因子のひとつである MCM3 のリン酸化レベルを抑制することが示され、G5PR は細胞周期の調節機構にも関与している可能性が示唆されています。

本抗体は、G5PR を免疫沈降法、ウェスタンブロッティングで特異的に捉えることができます。プロテインホスファターゼの基質の探索や、細胞周期などの研究に有用であると考えられます。

容量	25 μ g (100 μ L/vial)
形状	ウサギポリクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品
バッファー	PBS [2%ブロッカー(安定化蛋白)、0.1%proclin 含有]
保管方法	-20 $^{\circ}$ C以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は4 $^{\circ}$ Cで保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。
製造方法	マウス G5PR の部分ペプチドを免疫して得られたウサギの抗血清より、ペプチドアフィニティーカラムにて精製。
使用濃度	免疫沈降法: 2 μ g ウェスタンブロッティング: 1~5 μ g/mL



ウェスタンブロッティング

sample : Myc-GFP-G5PR 導入細胞の cell lysate

- ① 抗 G5PR 抗体で免疫沈降し、抗 Myc 抗体で検出
- ② 抗 Myc 抗体で免疫沈降し、抗 G5PR 抗体で検出

提供: 熊本大学 医学部 免疫学講座

阪口 薫雄 先生

五十嵐 英哉 先生

抗 マウス G5PR ポリクローナル抗体

【参考文献】

1. Genes Cells 2002 Aug;7(8):821-34.

製造元

 株式会社トランスジェニック

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp> techstaff@transgenic.co.jp